

【医療被ばく最適化推進委員会からのお知らせ】

本会活動の結果である原著論文より

公益社団法人神奈川県放射線技師会

会長 大内 幸敏

担当理事 渡邊 浩

前原 善昭

2015年6月にJ-RIMEがわが国で初めて日本としての診断参考レベル(DRLs)を公開しました。本会は同年にいち早く「医療被ばく最適化推進委員会」を新規に立ち上げ、最初の活動として県内の本会会員が在籍する医療機関の一般撮影での撮影条件等のデータや最適化因子等の調査を行いました。

この度、一般撮影の調査結果をまとめた論文が公益社団法人日本放射線技術学会の学会誌2018年5月号に掲載されました。論文は下記のサイトからダウンロード可能ですので是非ご確認ください。 https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jirt/74/5/_contents/-char/ja

論文のタイトルは、「一般撮影の医療被ばくの防護を最適化するためのベンチマークドーズ(BD)の提案」です。この論文の中で、**神奈川県**の病院で受ける被ばく線量は、**全国調査**の線量よりも**最適化(低減)**され、収束している(医療機関ごとのばらつきが少ない)との結論が得られています。また、DRLsの問題点を改善し、補完する**世界初のベンチマークドーズ(BD)**という**線量指標**を提案しています。

以上、会員の皆様に取り急ぎ論文掲載についてご報告いたしますとともに御礼を申し上げます。現在、本委員会では2016年度に実施したCTの線量等の調査をまとめた論文作成作業を行うとともに、今年度はIVRの線量調査を行うことにしております。今後も引き続きご協力をお願いいたします。